

分会情報

J R 東海 労 大 阪 仕 業 検 査 車 両 所 分 会
No. 7 2009.12.15
発行責任者 柿本 克彦
編集責任者 教 宣 部

見せしめの年末手当5%カットを許さない！

車両所の「組織改正」を通じた労務管理の強化を許さない！

12月5日、年末手当の明細書を配布されたJR東海労大阪仕業検査車両所分会の組合員の手当が、なんと5%カットされていました。

不当にもカットされた組合員は、何の心当たりもなかったのに、「計算間違いをしたのかな？」再度計算して、ちょうど5%カットされていることが分かり、唖然としました。即座にカットの理由は何かを当日（土曜日）配布していた松本直長に聞いてみましたが、「関西支社の総合的判断である」と言うだけでした。

仕業検査の標準化を通じた労務管理の強化を許さない！

皆さん！！仕業検査は、標準化作業を口実に管理者がつきまといあら探しをしています。その評価を関西支社に上げるのは管理者であり、その責任者は小俣所長です。今回のボーナスカットは、仕業検査の標準化作業を徹底させるために20名の社員の中から一人カットをして、見せしめのためにしたことは明白です。

組合員は12月11日、苦情申告を行いました。苦情処理会議で出されてくる理由は、カットするための「ため」にする「理由」に過ぎないでしょう。

2007年頃は、主任レポートでカットしていたのが、今回のカットは、車両所の「組織改正」を通じた攻撃であり、そして、仕業検査の標準化を通じた労務管理の強化の一貫であります。会社は「命令と服従」「規律と忠誠心」に基づく会社に従順な社員づくりに狙いがあると考えます。私たち労働者を会社の思うように働かせていくための社員管理の強化のための見せしめのためのボーナスカットは明白です。

小俣所長！

今回の、JR東海労組合員に対するボーナスカットは誰が考えてもデタラメなものであることは明白である。「間違いであった」と即効謝罪し撤回することが仕業検査車両所長としてやるべきことである！

12月の所長訓示で、「多客輸送である年末年始安全輸送を完遂するために、気持ちを引き締めて業務にあたりましょう」「経営環境が厳しい状況乗り越えるためには、所一丸となつての努力が必要です」と社員にだけ努力を強いて、デタラメな社員評価をしては管理者の成績アップのための自らの出世のための言辞でしかないことは明白です。これでは、まじめに働いている社員は報われません。労働意欲を逆なでする行為です。

私たち大阪仕業検査車両所分会は、今回の不当なボーナスカットに抗議すると共に、現場管理者による恣意的な判断の報告は決して許さない。これからも、社員が働きやすい職場を目指して闘っていきます。